

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

神奈川県 愛川町

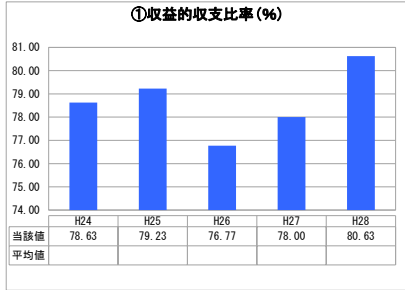
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	91.04	80.98	2,077

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
40,955	34.28	1,194.72
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
37,189	8.52	4,364.91

**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



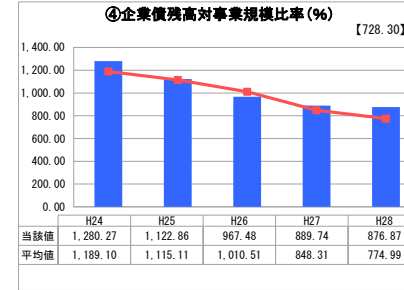
「単年度の収支」



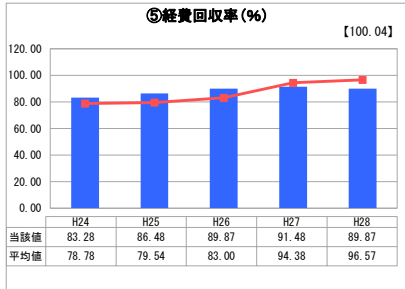
「累積欠損」



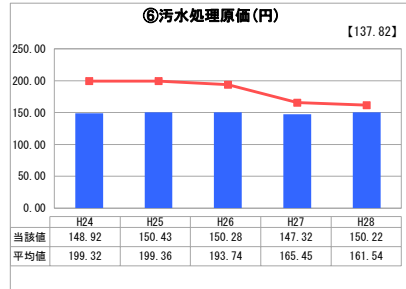
「支払能力」



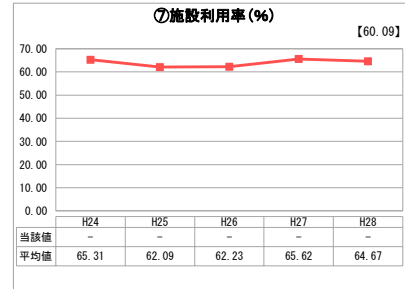
「債務残高」



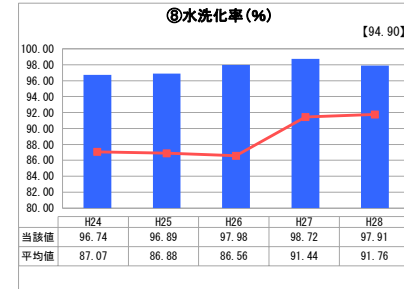
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

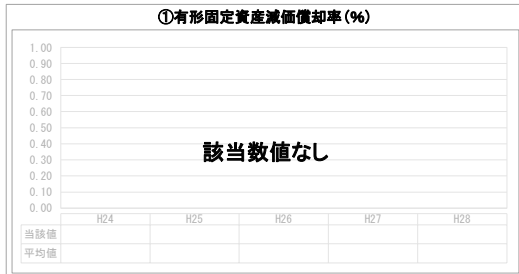


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

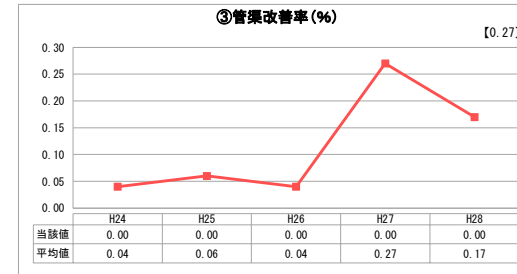
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析概

### 1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は、前年度に比べ2.63ポイント増となったものの、100%を割り込んでいる。企業債残高対事業規模比率は、類似団体平均値と概ね同等の水準で年々減少している。経費回収率においては、類似団体平均が上昇する中で1.61ポイントの減となり、汚水処理原価においては、前年度に比べ2.9円の増となったものの類似団体平均よりも低い水準を維持している。水洗化率については、市街化区域における汚水整備が平成22年度で概ね完了していることから、類似団体平均を大幅に上回る100%に近い水準である。

このような状況下、単年度収支は未だ赤字であることから、更なる経営改善に向けた取組みが必要である。

### 2. 老朽化の状況について

本町においては、昭和60年度から公共下水道を供用開始し、平成22年度で汚水整備が概ね完了しているところであるが、近い将来、施設の老朽化が急速に進むことが見込まれるため、現在、施設の長寿命化計画を順次策定している。今後、策定した計画に沿って、財政負担に配慮しつつ、優先順位の高い施設から老朽化対策を推進していく必要がある。

### 全体総括

節水意識の定着や節水器具の普及、人口の減少等から近い将来、厳しい経営状況に推移することが予想されることや、施設の老朽化が進んでいる状況を踏まえ、投資計画の見直しや維持管理経費の削減等を進める必要がある。

また、収益的収支比率は向上しているものの100%未満であることから、下水道事業における経営努力は今後も不可欠であり、特に経営基盤の強化として、更なる水洗化率の向上、経費の削減、使用料の適正化等について、なお一層力を注いでいくことが必要である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。